

**「主の救いを見なさい」**  
 出エイプト記 13章～16章  
 ～モーセの生涯（4）～

**はじめに**

今日は、さがみのキリスト教会創立 27 周年記念礼拝です。1992 年に任恭教宣教師が小田急相模原駅前に集会所を借りて始めたのが、この教会の始まりです。中村信哉牧師に依りますと、今までのこの教会の歩みは 3 期に分けられます。第 1 期は「駅前教会時代」（1992 年から 1999 年）、第 2 期は「新会堂時代」（2000 年から 2009 年）、第 3 期は「牧師交代時代」（2010 年から現在）です。初代牧師の任恭教牧師は 16 年間この教会を牧会して中村信哉牧師と交代し、一時帰国しましたが、現在は日本長老教会武蔵中会の太田町キリスト教会（甲府市）で牧会しています。

この教会は 3 年後に 30 周年を迎えます。この教会に歩いて 20 分で来られる人は 5 万人もいます。そしてそのほとんどは主の救いにあずかっていません。この地域のすべての人々に主の福音を伝えるためにこの教会があると思って祈って前進して行きましょう。

さて、今回は、モーセの生涯の 4 回目です。モーセは、イスラエルをエジプトから救い出すための指導者として神に選ばれ、その命令に従い、エジプト王パロと交渉しました。パロはそれを拒否しましたが、次々に神からの災いが起り、最後にエジプトの初子がみな殺されるに及ぶと、ついにイスラエルをエジプトから追い出すことにしました。その時、主はイスラエルの家を過ぎ越したことにより、主はこれを記念し「過ぎ越しの祭り」として民に守らせました。

さて、今朝は、エジプトを出たイスラエルの民がシナイ山で律法を与えられるまでを学びましょう。

**中心聖句「恐れてはならない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる主の救いを見なさい」（14:13）。**

**1 初子をささげなさい（13 章）。**

**（1）すべて最初に生まれる者を、主のものとしてささげなさい（12）。**

エジプトから救い出された民に、主は 先ず、最初に生まれる初子をわたしのために聖別するようにお命じになりました。

これは、主がイスラエルを救うためにエジプトの初子をみな殺したことにより、主はそのことを民の心に刻むためにイスラエルの初子をその身代わり（贖い）として主にさげさせたのです。

**（2）あなたの子に説明せよ（8.14）。**

主は、過ぎ越しの出来事の意義が子孫に伝えられて行くように、子どもにこのことを説明し、教えるように命じておられます。

**適用：**クリスチャンの親は、キリストの福音をこども達に教える必要があります。教会に子どもを連れて来るのは当然ですが、主がお命じになっているのは、親が自ら子どもに教えることです。日本にクリスチャンが増えない原因の一つに、信仰の継承が出来ていないことにあります。折角クリスチャンになっても、子どもたちがクリスチャンにならないのです。どうしてそうなるかと言うと、親が本物のクリスチャンになりきっていないことにあります。牧師や長老や執事の子どもであってもだめ。ここで良く考えてほしいのです。あなたは、牧師や長老や、執事である前に、お父さんであり、お母さんであるということです。どんなに良い牧師、長老、執事であっても、良いおとうさん、良いお母さんでなければ、子どもはクリスチャンになろうと思わないでしょう。

### (3) ヨセフの遺骸を携え (19)。

モーセは、ヨセフの遺骸を携えて来ました。それはヨセフが自分の遺骸をエジプトから携えて行くように固く民に誓わせたからです。

### (4) 昼は雲の柱、夜は火の柱が民を導いた。

(21-22)

## 2 海を渡る (14 章)。

### (1) エジプト軍の追跡 (1-9)。

主は、主の栄光をパロに見せるためにその心をかたくなにし、イスラエルを追撃させました。パロはえり抜きの戦車と全戦車を出動させ、自ら指揮を取りました。

### (2) イスラエル人の恐れ (10-12)。

民は、バアル・ツェフォンで海辺に向かって宿営していました。そこにエジプト軍が攻めて来たのです。そこで民は恐れ、モーセにくってかかりました。「エジプトに墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということ私たちにしてくれたのです。

私たちがエジプトであなたに言ったことはこうではありませんでしたか。『私たちのことはかまわないで、私たちをエジプトに仕えさせてください。』事実、エジプトに仕えるほうがこの荒野で死ぬよりも私たちには良かったのです」

**適用：**民には、主に対する信仰が信仰がありません。ですから、モーセを恨み、泣き言を述べたのです。

その時、モーセは民に言いました。「恐れてはならない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久にみることはできない。主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない」

**適用：**あの弱そうに見えたモーセがこのように強くなりました。たじろぐ民を沈め、主に目を向けさせ、主に信頼するように励ましているのです。リーダーは、どんな時にもたじろいてはなりません。主を信頼し、人びとを落ち着かせるのです。

**例話：**ある時、船が遭難し、沈没しそうになりました。するとある人が、あわてて、船長に「ああしろ、こうしろ」と言い、「自分は何でもするから」とわめくので船長は困り果てました。そして、ついに「そのロープをしっかり握っていてくれ」と言いました。船長と船員や人々の努力で沈没を免れました。あのわめいていた人は、「私がああロープをしっかり握っていたから救われたのだ」と自慢して回りました。すると、船長はにがにがしくこう言いました。「あの人があまりにうるさく、邪魔なので、私はあの人にロープを握らせて、ただ黙って動かずにいてほしかたったのです」と。

モーセは、「じたばたせず、黙って、主の救いを見なさい」と言ったのです。

エジプト軍が追って来たとき、主の命令に従ってモーセは、杖を挙げ、手を海の上に伸ばしました。すると、海が真ぶたつに分かれ、民は真ん中の濁いた地を歩いて対岸に行きました。渡り終わると、モーセは再び手を差し伸べると、水が元のようになり、追って海に入ったエジプト軍を滅ぼしたのです。

### 3. モーセとイスラエル、ミリアムの賛美（15:1-19）

### 4. 民のつぶやきと、神の助け（水と天からのパン 15:22-16章）

民は、マラで「水が苦くて飲めない」とつぶやきました。モーセは主に示されて、一本の木を水に投げると、水は甘くなり飲めるようになりました。

民はシンの荒野まで進んだ時、民はまたモーセにつぶやきました。「エジプトの地で肉なべのそばにすわり、パンを満ち足りるまで食べていたときに、私たちは主の手にかかって死んでいたらよかったのに。事実、あなたがたは、私たちをこの荒野に連れ出して、この全集団を飢え死にさせようとしているのです」（16:3）。

#### （1）パンが天から降るようにする。毎日、一日分を集めなければならない（4）。

これに応えて主は、天からパンを降らせるようになさいました。これは、「白い霜のような細かいもの、うろこのような細かいもの」（14）で、人々はそれを「マナ」と名づけました（31）。

人々はそれを毎日、一日分だけ集めなければなりません。それは「彼らわたしのおしえに従って歩むかどうかを、試みるためである」（4）と主は言われました。

彼らが神様に信頼し、神様が日々お与えくださるパンを期待して生きることを学ぶためでした。そして、安息日のためにその前の日には二日分を集めるようにお命じになりました。荒野でも安息日が守られていたのです。

**適用：**イエス様は、こう言われました。「わたしはいのちのパンです。あなたがたの父祖たちは荒野でパンを食べましたが、死にました。しかし、これは天から下ってきたパンで、それを食べると死ぬことがないのです。わたしは、天から下ってきた生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。」と言われました(ヨハネ 6:48-51)。

私たちも、毎日、一日分の「神のことば」を頂くことを求められています。毎日、主によって養われる必要があるのです。毎日、神のみことばである聖書から、日々の糧を頂いていますか。そうしないと、あなたの魂は健康に育たないのです。

そして、安息日である主の日の礼拝を守りましょう。荒野でも主は安息日を守るように命じておられました。ある牧師は「あなたの死ぬ日以外は礼拝を休むな。病気になるな」と教えているそうです。そこまで言いませんが、毎日みことばを読み、主の日に礼拝を守ることは、私たちに想像を超えた祝福をもたらすことは間違いありません。

## 結論

神様は、神の民をエジプトの苦役から救い出されました。そして神の民として生きていくために必要なおきてと教えをお与えになりました。

そしてきょうは、そこに行くまでのことを学んだのですが、その中心は、「神への信頼・信仰」です。神の民は、ただ神を信じて生きていくのです。そのことを学ばせるために、海を分け、水を変え、天からのパンを降らせたのです。私たちに求められているのは何でしょう。それは神様に信頼して生きることです。

神様はイエス様をこの世に送ってくださいました。そして、その十字架の死と復活によって私たちを罪から救い出してくださいました。そして、いまイエス様を信じる者はだれでも救われるのです。

## 救い主として受け入れていない人への勧め。

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれません。しかし、イエス様はあなたを知っておられます。今日、今、イエス様のもとに帰っていらっしやい。イエス様は、それを望んでおられます。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」